

甲賀三霊山

飯道山、庚申山、そして岩尾山は、甲賀の三霊山として知られています。ここでは、忍者たちが技を磨いたとされており、人里から離れた立地や変化に富んだ地形が修行に最適な環境を提供していました。

山々は、その霊的な意義と修験道の山伏たちとのつながりから崇拜されました。この形式の苦行は、神道、仏教、道教、儒教など、さまざまな宗教（しゅうきょう）伝統（でんとう）様々な宗教の要素を融合させ、山や自然に対する敬意を強調するものです。

三霊山にはいくつかのハイキングコースがあり、地域の美しさを徒歩で楽しむことができます。トレイルの入口への道順や詳細な地図を得るために、甲賀流リアル忍者館の観光案内所に立ち寄ることをお勧めします。

飯道山は、甲賀三霊山の中で最も高い山で、その標高は 664 メートル。山頂近くには飯道神社があり、その歴史は奈良時代（710-784）にまで遡ります。本殿は茅葺き屋根が特徴で、重要文化財に指定されています。4 月から 5 月にかけて、神社の敷地にはシャクナゲが咲き誇ります。強力な戦国大名、織田信長（1534-1582）が甲賀滞在中に飯道山に登り、周囲の風景を見渡したと言われています。

庚申山は飯道山の南東の尾根に連なり、広徳寺を擁します。伝説によると、この寺は 1200 年以上前に最澄大師（767-822）が開山したと伝わっています。本堂は 2013 年の山火事で全焼し、再建されました。山頂付近には展望台があり、特に秋には紅葉で鮮やかに彩られ、美しい景色が楽しめます。

岩尾山は険しい崖が特徴であり、仏教の彫刻や馬のような形をした「大馬岩」など、珍しい形をした岩が点在しています。また、山頂は桜の木々で知られており、3 月や 4 月にはお花見スポットとして人気があります。山のふもとには岩尾池があり、その縁には杉の古木が生えています。伝説によると、最澄がこの地に箸を植えたところ、不思議なことに箸が成長し、立派な杉の木になったと言われています。

トレッキングのヒント

観光案内所に路線の状況を問い合わせ、天候に適した服装を選びましょう。日本では、経験豊富なトレッカーは虫除けのために年間を通じて長袖や長ズボンを着用しています。また、誰かに自分の行き先を知らせておく心安心です。すれ違う人々に「こんにちは！」と挨拶するのが習慣です。環境保護のため、ゴミは持ち帰るようにしましょう。